

令和3年 11月 19日

## 議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長 森田 洋一 様

議会報告会 3班(市民経済委員会)

班長 野田 宏規

渡辺 仁二

高橋 光

斉藤 真理

阿部 治正

藤井 俊行

青野 直

私の班は議会報告会を開催し、その概要は下記のとおりでしたので、ご報告します。

### 記

- 1 日時 令和3年11月13日(土) 午後2時～午後4時
- 2 場所 おおたかの森センター ホール
- 3 欠席議員 なし
- 4 来場者数 市民来場者8人、議員・職員4人、計12人
- 5 報告内容
  - (1)新型コロナウイルス感染症に関して
  - (2)指定ごみ袋に関して

## 6 意見交換内容

### (1)新型コロナウイルス感染症に関して

#### 市民(江戸川台)

コロナ対策への市の対応が遅いし、内容も千葉県の対応を待っているなど不十分。また、インターネットでの情報提供も、目的の情報にたどり着くのが難しいなどアクセス面で問題が多い。

#### 市民(こうのす台)

感染者が増えているのに、その感染経路が不明であるような状況が生じた。流山市に保健所が設置されていないことの弱点がはっきりと示された。

#### 市民(鱒ヶ崎)

保健所を設置することが流山市の最優先課題だ。私も市長に要請したことがあるが、返事はない。人口が20万人以上となれば、市が国に申請すれば設置が可能になるはず。議員と市議会はずいぶん、市に強く要請をしてほしい。大きい総合病院がないのも流山市の問題点。それと、インフラの整備。

#### 議員

保健所設置の要件は人数と申請だと思う。今の話だと、20万人だと認識している。

#### 議員

市のホームページは私もわかりにくいと思うので、工夫を検討する余地があるか聞いてみる。議会報告会は、中立でなければならない。党派の考えを表明する個人の報告会では無いので、どうしても執行部寄りになる。

自治法14条の件は、執行部法制担当に確認する。

#### 議員

議員のひとりとして、市の取り組みは特に二つの点で極めて不十分であったと受け止めている。特にPCR検査などの検査態勢の遅れと不備

であり、中でも高齢者施設における無症状者への事前の検査を実施できなかったことは、高齢者施設でのクラスターの発生を許してしまったと考えている。

もうひとつは、感染が大きく拡大した時点でも、医療の受け皿、入院体制が作れず、ホテル療養どころか自宅療養を余儀なくされる患者が多数発生したこと。市の責任と県や国の施策の不十分さが相まって生じたことだが、第6波がやってきた時には、同じ誤りを繰り返させないような取り組みを市に強く求めていきたい。

## 議員

人類が遭遇したことがない災害級の感染拡大と医療崩壊を第5波が襲ってきた。

国の科学的見地に基づかない後手後手の対策に市も翻弄され、十分な対策がとれなかった。

PCR検査センターの立ち上げ、市立病院をもたない医療体制、中小企業対策等々での対応の遅れが全てに現れた。ワクチン接種も近隣他市より1ヵ月も遅くなった。

この間、日本共産党は17回にわたって要望書を提出して改善を求めてきた。

この教訓を第6波に向けて取り組みを強化すべきである。

## 議員

近代では、人類が初めて遭遇したコロナ禍であり、それぞれが、試行錯誤の中で取り組んできた。公明党としては、市民の方からの様々な声をもとに、7回にわたり、市長に対し、緊急要望を提出してきた。その中で、透析治療されている方への、福祉タクシー券の増刷や、自宅療養の方への日用品の配布など、実現してきた。

## 議員

第5波の対応については、ワクチン接種については、高齢者への予約システムについては色々問題があったと思う。また、64歳以下のワクチン接種も中々予約が取れなかったと伺っている。ワクチン接種のおかげで新型コロナウイルス感染が抑えられた科学的根拠は今はないが、対策としては十分効果があったと思う。第6波があると想定しての3回目ワクチン接種についても注視していきたい。

## (2) 指定ごみ袋に関して

### 市民(駒木)

指定ごみ袋の導入に対しては、多くの市民が反対の意思表示をしている。反対をしている自治会もある。

指定ごみ袋の導入は手続き上、当局の施策なので議会では議決できないと言われ、市長は市の長期計画の中で書いているから条例化しなくてよいと言う。しかし地方自治法 14 条では、市民に対して義務を課し権利を制限する場合は条例化しなければならないとされている。もし、指定ごみ袋を使用していないという事でごみを収集しないなどのことが発生すれば、行政不服審査、行政訴訟の対象にもなりうる。

市が、99 年の地方自治法の改正以前の古い感覚で施策を進めているのだとすれば問題だ。

### 市民(こうのす台)

指定ごみ袋導入の効果のひとつとしてごみの減量化に資すると言われるが、本当に減量化になるのかは大いに疑問だ。減量化の方法は、きちんと水切りをするなど色々な工夫の仕方がある。そういう住民の意識改革こそが必要であり、単に指定ごみ袋に変えても効果は上がらない。

### 市民(八木)

条例化していないことは問題。条例化していない以上、指定ごみ袋は行政指導に該当する。行政指導だと強制力は伴わない。

全国的に見ると、指定袋には有料化と有料化ではないものがある。有料化せずに単純指定袋を採用しているところもあるが、そうした自治体では減量化が進まないなど効果の面で問題が生じており、有料化に進もうとして条例化も検討し始めている。流山市は行政指導だとみていると思うが、問題が出てくるのは避けられない。

減量化の効果などを数量化して点検する仕組みの導入が必要だ。

議会はなぜ条例化を求めないで通してしまったのか、責任を問われる。

### 議員

今回の報告は公平を期すために市役所の発表している資料を扱ったものと理解している。その旨、御理解いただければと思う。条例化に関し

ては、地方自治法の規定には当たらないと認識している。ただ、ごみの収集、運搬、処理は行政の義務であるから、今一度確認する。

### 議員

指定ごみ袋の導入の施策の良し悪しは別にして、地方自治法に照らして条例化すべき案件であるとの意見については、この場で強くご意見を伺ったこともあり、検討をさせて頂きたい。

ごみ減量の様々な工夫、水切りの必要などについては、議会で何人かの議員が一般質問などを行うなどの形で提案をさせて頂いている。こうした取り組みをもっと大きく広げていくことが大事だとのご意見として伺う。

### 議員

ごみ減量とリサイクル率は年々向上している。減量は市民の努力・協力の結果であり市民との納得と合意が必要である。ある自治会のアンケートでも反対、延期・再考意見が75%となっている。

他にも、プラごみを増やすこと、価格負担が大きいことを考えれば、延期・中止の決断が必要である。

そもそもごみ問題は、自治体と住民に押し付ける体制を「拡大生産者責任」の立場で抜本的に見直すことが求められている。

### 議員

去る10月1日から令和4年3月31日までの間、指定ごみ袋の移行期間中であるため、当局が市民の声をまとめて、検証をしている段階であるため、現状を見極めていきたい。

令和4年度からごみ焼却施設の長寿命化計画に入るため、ごみ減量化、リサイクルの徹底をさらに進める必要がある。

当局は、毎月1回ゴミ質の分析をしているが、水分が60～70%含まれており、収集運搬車は水を運んでいる状況にある。

長寿命化工事に入ると他市にごみ処分をお願いしなければならない状況が発生することになると考えられる。

### 議員

市民一人当たりのごみ量は、皆さんのご努力により減少しているが、人口が急増しているため、ゴミの総量としては、増加を続けている。焼却

炉の長寿命化のためには、ゴミのさらなる減量が必要。その為の指定ごみ袋導入ととらえている。

指定ごみ袋導入に反対される方の多くは、ゴミ削減への意識も高く、すでに、かなり真剣に取り組んでくださっている方だと感じている。一方で、他市から転居されてきた方、若い世帯、子どものいる家庭、お仕事や子育てで忙しくて、ゴミの分別や減量化に意識が向かない方もまだまだ多くいらっしゃる。そういった方に対しても、ゴミの正しい分別や、減量化を意識していただくための効果は大きいと思っている。

## 議員

指定ごみ袋については会派で要望書も提出しており、この移行期間の数値化が大変重要であると考えている。また、導入後にゴミの削減数値の下げ止まり等が他自治体ではあるときく。このあたりもしっかりみていき、指定ごみ袋の導入後のチェックは必要と考える。条例化に関してはしっかり調べていきたい。

### 7 参加者から議会への要望

- 新型コロナウイルス感染症の拡大を防げなかった要因の一つが検査の不十分さにあったことに鑑みて、流山市に保健所を設置するよう市当局に働きかけて欲しい。
- コロナ感染症患者を受け入れる病院、病床を増やしてほしい。
- 指定ごみ袋の導入ではごみは減らない。ごみの減量化のための工夫や方法について市民自身の取り組みを呼びかけて欲しい。
- 指定ごみ袋の導入でごみの量減るかどうかが、検証をしてほしい。
- 指定ごみ袋の導入は条例化すべき案件であるので、議会としてももっと勉強をして、市当局に働きかけて欲しい。
- ごみの分別の徹底や間違ったゴミ出しは指定ごみ袋ではなくシールを貼る方法でも可能なので検討してほしい。

### 8 所感

#### 野田 宏規

多くの市民の方にお越しいただきありがとうございました。具体的なご指摘をいただいたことで、とても有意義な時間になったと感じています。全体を通して叱咤激励をいただきましたので、今後の活動に活かしていきます。

## 藤井 俊行

参加者が少なかった。特に若い世代の参加が無かった。近隣地域の参加者がいなかった。広報の改善で増やすことはできないかもしれないが、改善が必要。

## 阿部 治正

今回は、多くの市民の皆さんが強い関心を持っているコロナ感染症対策と指定ごみ袋導入問題をテーマとしたこともあったからか、参加者から活発な発言が行われ、中には厳しいご意見もうかがう事となった。報告会の場では、すぐに答えを出せない問題もあり、また議員個々人、各会派の考えもさまざまであることから、答えは今後の議員同士、議会内での意見交換も行いながら見つけていきたい。

## 高橋 光

参加者が9人と少ないことが懸念されます。折角の住民の声を聞けるチャンスですので参加者を増やす取組みが必要と考える。

議員の報告が「ながれやま広報」で行ったことに批判の声がありました。報告内容を報告者任せにしないで委員会で確認するように改めるようにすべきと考える。

## 青野 直

新型コロナウイルスをはじめ、令和4年4月1日から導入予定の指定ごみ袋について、参加者との意見交換が実施されたことを評価し、市民の声を直接聞くことが出来たことに感謝をしています。議会基本条例を着実に順守していくことが、議会人の基本と考えています。

## 斉藤 真理

今回テーマに掲げた「コロナ感染症対策」と「指定ごみ袋導入」については、市民の関心が高いとは思ったが、参加された方については、おたかの森センター近隣の地元住民の参加が無く、主に、このテーマに、強い関心を持つ、一部の市民の方の参加にとどまったことは、残念だった。

とはいえ、貴重なご意見を聞くことが出来、参考になった。

## 渡辺 仁二

新型コロナウイルス感染症の対策は様々な課題があると感じた。また、指定ゴミ袋導入についても賛否は別として、市民からは様々な意見が残っていると感じ、市の対応では取り残されているものの声を拾える報告会であったと思う。しかし、議員個人個人の意見の発表の場ではない議会報告会であるため、運営方法は再考の余地がある。